

【合同資源みらい賞】

きのした ひろあき
木下 宏明

忘れ去る前に

木下 宏明

母さん、まだ私のことがわかりますか？
息子の顔がわからなくなる前に、どうしてもお詫びとお礼を言いたくて筆を執りました。
何を改まってと言われそうですが、ここの所、顔を見れば小言ばかりが口を突いて出てしまい、
母さんの戸惑いを見てしまうと、また憎まれ口を言いそうなので、手紙にしました。
私が妻に先立たれたのを機に、故郷山口から出てきてから、もう17年になりますね。
表向きは1人暮らしの母さんを長男の私が引き取る形でしたが、
実際は、子どもを抱えて身動きの取れなかった私の面倒を見るために来たようなものでしたね。
70年間住み慣れた山口を離れ、これといった知り合いもなく耳慣れない言葉の渦の中に
置いてしまった上に、不登校になってしまった孫との関わりでは、
なかなか馴染むことが出来ず、苦しい思いをさせてしまいました。
拳句の果てにその孫も十代半ばで逝ってしまい、心痛の極みを
体験させることになってしまいました。ごめんなさい。
そんな苦しみも、徐々に母さんの中から消えていく……傷が癒えて苦しみから
解放されるのではなく、記憶そのものを失くしていく母さんを見ていると、
胸が締め付けられるようで、とても心が痛いです。
長い間ごめんね。そしてありがとう。
いつまで私のことを覚えているのかわかりませんが、あと少しの人生、
今度は私が支えていくからね。長生きしてくださいね。

(岐阜県 / 64歳 / 男性 / 介護相談員)

普段口に出して言えないことを文章、手紙にできればと思いました。
母への感謝の気持ちを伝えたかったです。